

僕は、周りを山に囲まれた花坂という地域に住んでいます。花坂は世界遺産である高野山のふもとにあり、かつては高野山に参拝する人々で賑わう宿場町でした。

名物はあっさりとしたあんこを薄めの餅で包み、香ばしく焼いた「やきもち」です。昔の参拝客はとても長い道のりを歩きました。そんな参拝客を癒したのが、やきもちであり、ここ花坂だったのです。

しかし車社会になり、参拝時に花坂に泊まる人はいなくなりました。家からコンビニまで車で三十分、学校まではバスと徒歩で四十五分も掛かるので、いつも不便に感じています。仕事も遊ぶところもない村では若者は都会に出て人口も減り、過疎化、そして少子高齢化が進んでいます。

しかし、僕は花坂が好きです。勿論生まれ育った所だから住み慣れているというのもありますが、花坂は自然が美しく、伝統のある村だからです。

春の爽やかな新緑、夏の夕立、秋に金色に輝く稲穂、冬の雪景色など、四季折々の風景は最高です。

花坂の伝統文化には、毎年八月十五日に開かれる村の小さな夏祭りで奉納される「鬼もみ」があります。本来、悪と捉えられる鬼ですが、花坂の鬼は違います。鬼を榊でもみ、お祓いをし、五穀豊穰等を祈るのです。僕は鬼もみをモチーフとした伝統的な太鼓グループ、花坂鬼もみ太鼓保存会というグループに所属しています。力強く躍動感のある曲が持ち味で、毎年夏祭りだけでなく、県内の様々なイベントに出演して鬼もみ太鼓を広めています。伝統を後世に伝えねばならない、という思いで僕は太鼓を叩いています。

自然、文化、美しいこのふるさと、このまま過疎化・少子高齢化が進むと十年後どうなっているかわかりません。伝統あるこの村をどう守っていくか、それは僕たちの世代が直面している大きな課題です。

今、テレビでは北朝鮮のミサイル発射などの国の争いに始まり、国内では会社の偽装、殺人、いじめなど暗いニュースが並びます。それらを観るたび僕は心が痛みます。国境のない現代社会、競争社会は人の心を疲れさせているのではないのでしょうか。僕は将来、この地域の素晴らしさを、インターネットを通じて発信したいと考えています。幸いにも、高野山には世界中から観光客が訪れます。まず、花坂を知り、宿泊体験や農業体験をしてもらえれば、心の中が癒されていくのを感じるはずです。人が集まれば仕事は生まれます。かつて参拝客の身体を癒した地を、次は心の癒しの地として、再び活気ある村にしていきたいのです。

この村が元気になれば、その力は周囲へと広がっていくはず。花坂から、日本全体に、明るいニュースを発信していきたいと思えます。

僕は、花坂が大好きです。いつまでも村の存続を願います。いつか大変な状況になっても、必ず僕が、僕たちが、この美しい村を守ります。